

令和5年5月10日

令和4年度 広瀬こども園 自己評価

広瀬こども園
園長 武内秀樹

(1) 子ども一人ひとりを尊重しないかかわり	76 %
(2) 物事を強要するようなかかわり、脅迫的な言葉がけ	66 %
(3) 罰を与える、乱暴なかかわり	84 %
(4) 一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	85 %
(5) 差別的なかかわり	96 %

参照；全国保育士会「人権擁護のためのセルフチェックリスト」

令和4年度は不適切保育による園児の虐待などが社会問題になった事を受け、自己評価については全国保育士会による「人権擁護のためのセルフチェックリスト」を使用して実施した。

(働き始めてから今までを振り返ったため、今ではそのようなかかわりをしていないが、以前に気になるかかわりがあったため数値が低くでてしまった設問があった。)

ほとんどの職員がしていないつもりであった事でも、かかわり方や声掛け、使った言葉により知らないうちに不適切と思われるかかわりをしていたかもしれない事に気づき、自身の保育や子どもとの関りについて見直すことができた。日常行っていたかかわりについて子どもの気持ちに寄り添う事や、尊厳を尊重するかかわり方、言葉の選び方を意識する事の大切さに気づき共有することができた。

お寺の園として日常の中でお祈りや感謝を感じ取る機会を設け「おかげさま」の心に子どもが触れることが出来る機会をもっている。

保育計画を作成し計画に沿って保育を行っており、PDCAサイクルを意識し計画と実際の活動内容が連動していると職員が感じている。

新型コロナウイルス感染予防のため活動に制限があったが、感染予防を優先しながら子どもの興味に合わせた活動ができた。

保育計画の共有が保育教諭、栄養士調理員間で不足しており、定期的な話し合いの場で計画を共有する必要性を感じた。

運営管理における各種マニュアルの見直しを行い、「広瀬こども園 危機管理マニュアル」を新たに定め、全職員に配布し周知した。

これからも常に子どもを中心に考え、子どもにとって幼児期にふさわしい生活の中で、発達に必要な体験を積み重ねていくことができるよう努めていくこと。子どもたちを取り巻く状況や、これからの幼児教育の方向を見据え、現場に求められている社会のニーズを十分に把握した上で、幼児期の教育・保育の基本を捉え直すとともに、具体的な手だてを考え、質の高い教育・保育の実現にしっかりと取り組んでいくようにしていきたい。